

国語 A

32 問全ての設問において全国平均を上回り、平均正答率は 92% (全国平均 76%) でした。32 問中 2 問は全員正答で、漢字を正しく読み書きする力や文章の要旨をとらえる力、場面の展開に注意しながら読み、内容を理解する力において優れているという結果が出ました。全問正解者 11 名、1 問間違い 14 名であり、基礎・基本が十分に身につけているといえます。毎日の授業を大切にすることや、漢字テストや読書の時間での取組の成果が現れています。

国語 B

平均正答率は 84% (全国平均 61.2%) で、活用の問題においても十分な学力を有しているといえます。9 問全問正解者 19 名、1 問間違い 42 名でした。比較的正答率の低かった「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」という設問は、正答率 45.5% (全国 13.3%) でした。国語や各教科等の授業において、課題を設定し、目的意識を持って読み、情報を整理した上で文章を書くという取組をより、充実させていきたいと思えます。

数学 A

36 問全ての設問において全国平均を上回り、平均正答率は 94% (全国平均 66.1%) でした。国語同様に基礎・基本が十分に身につけているといえます。全問正解者 20 名、1 問間違い 22 名という結果でした。ほとんどの問題で 80% をこえる正答率でしたが、「関数の意味」で 64.6% (全国平均 36.4%) とやや低い正答率でした。授業の中で、関数の関係を見つけ表現する問題に取り組みせることにより改善を図りたいと思えます。

数学 B

平均正答率が 83% (全国 46.9%) と全国平均を大幅に上回っています。14 問全問正解者 8 名、1 問間違い 23 名でした。良好な結果でありましたが、その中で比較的正答率が低かった問題は、「情報の適切な選択と判断」の 33.3% (全国 10.4%) でした。割引と通常料金との関係を説明するのに、十分な説明ができていない生徒が多かったことによるものでした。十分復習し、定着を図っていききたいと思えます。

理科

27 問すべての設問において全国平均を上回り、平均正答率は 89% (全国平均 67%) でした。27 問中正答率 100% の問題が 3 問、それを除いて 95% 以上の問題が 8 問でした。また、主として「活用」に関する問題の正答率は 90% で、活用の問題においても十分な学力を有しているといえます。比較的正答率の低かった問題は「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する」という問いで 58.6% (全国平均 21.1%) となっており、植物そのものだけでなく、観察実験の状況にも目を向けられるような視野の広さや考え

方の柔軟性などを身につけることが今後の課題かと思われます。H27年度の調査においても風向に関する問題が出題されていましたが、その際は正答率 36.5%と低いものでした。本調査においても「風向の観測方法や記録のしかたに関する知識・技能の活用」に関する問題については、正答率は低めの 66.7%（全国平均 39.3%）となっており、前回の調査よりは向上しているものの、引き続き理解を深める努力が必要であることがわかります。

生徒質問紙

質問紙調査の結果から、学習に対する意欲の高さが表れています。「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の予習・復習をしている」（している・どちらかといえばしている）生徒はともに 90%をこえており、毎日の学習が習慣化されています。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は 75.8%（全国 52.1%）と、自分で考えながら予習・復習に取り組んでいることがうかがえます。

また、「数学が好き」と考えている生徒は 76.8%（全国 54.9%）、「数学の勉強が大切」と考えている生徒は 95.0%（全国 83.6%）であり、「理科が好き」と考えている生徒は 83.8%（全国 62.9%）、「理科の勉強が大切」と考えている生徒は 89.9%（全国 70.6%）と、理数系に対する意欲が高いことが分かりました。自ら意欲を持って学習に取り組んでいることが表れています。

今回の高い得点率を維持し、高校につなげていくためには、今後も生徒が自分で計画を立て、勉強に励んでいくことを継続していくことが重要です。